広島大学高等教育研究開発センター

人文学・社会科学分野の研究の再現性に関する基礎調査

野内　玲

国際共同研究推進事業
「大学における教育研究の生産性向上に関する国際共同研究」

RIHE Advancement of Higher Education Research
Monograph Series
No.8

人文学・社会科学分野の研究の再現性に関する基礎調査

野内玲

はじめに

近年では、科学研究を進める際の研究の公正性についての取り組みが盛んである。そこでは単に捏造・改ざん・盗用といった不正行為ではなく、その背後にある研究の再現性の問題が医生命科学と心理学を中心に国際的にも大きく注目されてきている。一方で、この問題について人文学・社会科学のその他の領域での特徴を論じる研究は国内外で萌芽的である[1]。

このような国内外の動向を踏まえ、本調査では人文学・社会科学分野における研究活動の再現性に関する議論を新規に構築することを目的とする。この際、人文学・社会科学分野の研究者らに対するアンケートを通じて実態調査を実施し、この調査成果に基づき、研究の再現性問題に関する分野横断的な側面と分野固有の側面とを実証的に明らかにする[2]。

1. 目的

研究公正の文脈において近年注目されている研究の再現性問題の根幹にあるのは、科学的主張を受け入れるための適切な根拠と、その根拠から自身の主張への論述が明確かどうかである[3]。根拠となるデータや先行研究が不正に取り扱われたり、それらを根拠にした分析や論述を不適切であったりすれば、当該研究を再現すること（読者が同じ結果や解釈にたどり着くこと）は不可能である。したがって、元にした論文等の形で研究成果を取りまとめる際に、それぞれの研究分野では何を重視しているのか。本研究ではこの問いを先行研究調査とアンケートによって調査・検討する。その際、研究実施の手続きに加え、主として人を対象とする研究を実施する際に関係する、研究倫理審査委員会に関する調査も実施する。す

---

[1] 数少ない例として(Peels 2019)がある。Peels は人文・社会科学系の統計を使わない分野に再現性問題があるのかを自然科学系と比較検討した。その際の議論には、分析哲学分野で使用される考え方（タイプとトークン）を用いている。Peels, R. Replicability and replication in the humanities. Res Integr Peer Rev 4, 2 (2019). https://doi.org/10.1186/s41073-018-0060-4

[2] 本研究は「広島大学高等教育研究開発センター：公募型国際・国内共同研究推進事業－大学における教育研究の生産性向上に関する国際共同研究－」の助成を受けて実施した。また、日本学術振興会科学研究費補助金「科学理論の頑健性の検討を通した研究の再現性問題の再構築」（基盤研究 C、2021 年 4 月～2024 年 3 月）における研究と並行して実施するものである。

[3] 心理学や医学研究での事例を挙げれば、データを取捨選択することで有意性の判定基準 p 値を恣意的に操作する P ハッキングや、データが出揃ってから探索的に（後付けに）仮説を形成し、当初から仮説検証型の研究であったかのように見せかける HARKing がある。これらの行為では、データと成果を不適切に結びつけている。

なわち、こうした委員会による第三者的視点が研究活動の客観性や透明性の意識が、研究の再現性にどのように関わるか（もしくは、関わりうるか）を検討する。

2. 背景

本研究で研究の再現性について検討する背景は、心理学や医学分野での「再現性の危機」とされる近年の動向に由来している。ここでは社会科学の代表としての心理学分野に注目してこの問題を概観する。この分野で再現性問題が認識されるに至ったきっかけとして、社会心理学のトップジャーナルに掲載された超能力論文の例（Bem 2011）がある。定量的研究において、統計的検定力が低い手法を用いる場合、ある効果が実際に生じていてもそれを検出することは難しい。また、検定力が低い複数の手法で検証すればするほど、その中には優位ではない報告が含まれる可能性が高くなる（心理学の場合、20～40%程度の検定力しかない場合が多い）。それでも予想通りの結果が出続ける場合、それはその効果の実在ではなく、手続きに問題がある可能性が高いことを示す（統計的優位差の導出に誤りか不正がある）（池田他 2015, 5）。このことに加えて、Bem は結果を見てから仮説を立てるべしという（誤った）方法論を明言しており、そもそもの研究手法の考え方においても問題があったことが同分野での再現性危機を論じる際の通説となっている（平石・中村　2021, 29）。

人文学・社会科学領域において統計学を手法として用いる分野（教育学や経済学）では、心理学分野での問題が同様に当てはまることが予想される。しかし、統計学を用いない研究、例えば文献解釈等の研究における再現可能性については別の観点があることが考えられる。

ここで、研究の再現性の定義について先行研究を確認したい。（国里 2020）では（Goodman et. al. 2016）による「方法・結果・推論の再現性」を踏まえ、心理学研究における再現性の全体像を明瞭に描写している。ここでは再現性のより一般的な定義として、「再現性とは、ある現象が成立する条件を整えることができれば、その現象が繰り返し生じることを指す」とされている（国里 2020, 21）。これは実験に関する方法・結果・推論の再現性を念頭に置いているかと考えられる。人文・社会科学においても、議論の根拠となる根拠（文献や資料・史料、先行研究における解釈）を用いて、論証を展開し、著者の主張となる解釈（すなわち、結果）に至るという過程のそれぞれが、先の「再現性」という用語で含意されている事項に当てはまるだろう。より具体的に言えば、根拠となる事実や先行研究の解釈から新たな見解を導出していく際には、他の研究者が著者の思考の流れを適切に読み取ることが可能な形での論述が求められる。本研究では、この観点を論述の追跡可能性（Traceability）と呼ぶことにする。その際の論述も、真実を明らかにするというより、論述において先行研究等の多様な解釈を相互に競わせ、新たな解釈へと結び付けていくことに意義がある（新奇性）。そして、その論述の意図が他者から適切に解釈できる必要がある。この意味で、論述の追跡可能性（Traceability）を「再現性」の一形態とみなすことが可能である。

このように、人文学・社会科学分野野での研究実態を明らかにすることはそれ自体として意義があるし、その成果を、自然科学分野を主眼とした再現性の議論に再適用することで新たな視座を提示することになりうるだろう。さらに、本調査の社会的意義も提示すれば、研究の再現性の問題は、研究活動の質の向上や、研究不正行為への対応など、研究公正の課題でもある。文部科学省の「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン」に基づき、各研究機関では所属する構成員に対し、研究者倫理教育や研究不正防止講習会、研究者倫理の e ラーニングを提供している。しかしながら、研究分野によって研究の実施内容も、検討すべき倫理面の配慮も異なっており、高等教育における研究公正の実質的な教授機会は、研究室での指導に強く依存していることが考えられる[4]。研究の再現性、そして研究公正の取り組みを再検討することで、大学における研究環境や研究風土といったより広範な文脈を明らかにすることにも繋がることが考えられる。

以上の問題意識を踏まえ、本研究の目的を書き下すと以下のようになる。責任ある研究活動を実施する上で必要な研究倫理・研究公正の事項について、研究室での指導の実態とその分野依存的・分野横断的側面を明らかにする。その結果、研究者及び大学院生が研究実施過程や研究対象者に適切な配慮を行いつつ、研究の質を向上していくことのできる研究環境を構築するための基礎情報を提供する。

3. 調査の実施方法

アンケート調査の実施のため、アンケート実施のための同意文書とアンケートの質問項目を作成した[5]。また、調査実施のため、広島大学高等教育研究開発センター研究倫理委員会で研究課題「責任ある研究活動を実施するために必要な教育内容」としての審査を申請し、2022 年 2 月 1 日に承認を受けた（審査番号 2021 審 011）。

アンケートは SurveyMonkey で Web アンケートのフォームを作成した。アンケートの案内は、BMC 経営管理センターを通じて日本国内の大学院研究科研究科長宛にハガキにて送付し、研究科に所属する研究者・大学院生にアンケート URL を展開するよう依頼した。主たる調査内容は人文・社会科学分野の研究公正に関わる教育研究の実態であるが、研究分野間の比較を行うため、全分野の大学院研究科に送付した。学生に対する依頼を大学院生以上

---

[4] なお、（加藤 2018）によれば、心理学分野では「現在では再現性問題の議論はおおむね終焉を迎え、すでに多くの学術雑誌が科学の透明性と再現性への対策を履行する段階である」とのことである。再現性の危機を乗り越え、そのために論文投稿のプロセス等において、P ハッキングや HARKing が起き難い環境をアカデミアとして構築しているという。こうした心理学分野における一連の取り組みは、（平石・中村 2021）にて具体的事例も交えて解説されている。

[5] 質問項目の作成において、広島大学高等教育研究開発センターの村澤昌崇先生には研究実施の方法も含め、本研究に関する重要な指摘を多数いただいた。先生には調査実施の内外における支援について、この場を借りて感謝申し上げる。

に限定したのは、大学院生ならば、研究分野によらず、卒業研究の実施・卒業論文の執筆を経て、研究室内での研究指導を受けたり、学会発表・参加等の経験があると考えられるからである。研究参加者を集めるにあたり、研究科長からの転送が重要なため、初回の案内に加え、1 回のリマインダーを実施した（ただし、アンケートの展開に協力いただけたことが確認できた研究科へのリマインダー案内は、過剰な連絡で迷惑をかけないよう一部省略した）。また、アンケート回答結果を大学に関する外形的情報と関連させて分析ができるよう、各研究科には大学を識別不可能な形でのフェイク ID を事前に割り振り、回答に際して入力をするよう求めた。

4. 調査結果（概要）

アンケートの案内に対する反応は以下である。

初回案内ハガキ郵送：1,923 件（2022 年 2 月 17 日）
リマインダーハガキ郵送：1,906 件（2022 年 3 月 16 日）

Web アンケート同意確認：同意 1,714 件、非同意 14 件
フェイク ID 入力：1,172 件

以下のページでは、SurveyMonkey のシステムにより出力したアンケートの単純集計結果を抜粋して提示する（同設問の英語版回答を併記する）。今後、論文として成果を取りまとめていく中で、結果全体を詳細に分析した内容を発表していく予定である。

回答者属性について

Q：あなたの研究分野を教えてください。

回答の選択肢	回答数	
1. 情報学	4.69%	55
2. 環境学	1.02%	12
3. 複合領域	4.01%	47
4. 人文学	7.76%	91
5. 社会科学	9.64%	113
6. 総合理工	1.71%	20
7. 数物系科学	4.69%	55
8. 化学	5.55%	65
9. 工学	13.99%	164
10. 総合生物	0.43%	5
11. 生物学	4.69%	55
12. 農学	4.44%	52
13. 医歯薬学	28.24%	331
その他 (具体的に)	9.13%	107
合計		1,172

回答の選択肢	回答数	
1. Informatics	4.08%	2
2. Environmental science	6.12%	3
3. Multidisciplinary fields	6.12%	3
4. Humanities	0.00%	0
5. Social sciences	14.29%	7
6. General Science and Engineering	2.04%	1
7. Mathematical and physical sciences	6.12%	3
8. Chemistry	4.08%	2
9. Engineering	24.49%	12
10. Biological sciences	6.12%	3
11.Biology	0.00%	0
12. Agricultural sciences	6.12%	3
13. Medicine, dentistry, and pharmacy	18.37%	9
etc.	2.04%	1
合計		49

Q：あなたの所属する部局・部署の研究分野を教えてください。

回答の選択肢	回答数	
1. 情報学	4.52%	53
2. 環境学	0.34%	4
3. 複合領域	3.58%	42
4. 人文学	7.42%	87
5. 社会科学	8.87%	104
6. 総合理工	2.99%	35
7. 数物系科学	3.50%	41
8. 化学	3.67%	43
9. 工学	14.76%	173
10. 総合生物	0.43%	5
11. 生物学	2.30%	27
12. 農学	5.20%	61
13. 医歯薬学	30.46%	357
14. その他 (具体的に)	11.95%	140
合計		1,172

回答の選択肢	回答数	
1. Informatics	6.12%	3
2. Environmental science	2.04%	1
3. Multidisciplinary fields	2.04%	1
4. Humanities	0.00%	0
5. Social sciences	12.24%	6
6. General Science and Engineering	4.08%	2
7. Mathematical and physical sciences	4.08%	2
8. Chemistry	2.04%	1
9. Engineering	24.49%	12
10. Biological sciences	4.08%	2
11. Biology	2.04%	1
12. Agricultural sciences	8.16%	4
13. Medicine, dentistry, and pharmacy	24.49%	12
etc.	4.08%	2
合計		49

Q：あなたの所有する最高学位を教えてください（大学院生の場合、修了見込みも含む）

回答の選択肢	回答数	
1. 学士	7.08%	83
2. 修士	32.59%	382
3. 博士	59.39%	696
4. その他	0.94%	11
合計		1,172

回答の選択肢	回答数	
1. Bachelor	6.12%	3
2. Master	30.61%	15
3. Doctor	63.27%	31
4. Other	0.00%	0
合計		49

Q：海外（日本以外）での研究経験の有無を教えてください。

回答の選択肢	回答数	
1. ある	29.18%	342
2. ない	70.82%	830
合計		1,172

回答の選択肢	回答数	
1. Yes	79.59%	39
2. No	20.41%	10
合計		49

Q：あなたの身分・職階を教えてください。

回答の選択肢	回答数	
1. 大学院生（修士課程）	24.66%	289
2. 大学院生（博士課程）	13.31%	156
3. ポストドクター・オーバードクター・研究員等	1.54%	18
4. 助教	9.81%	115
5. 講師	5.46%	64
6. 准教授	15.44%	181
7. 教授	28.41%	333
8. 無所属（名誉教授、客員教授等）	1.37%	16
全回答数: 1,172		

回答の選択肢	回答数	
1. Graduate student (Master's course)	14.29%	7
2. Graduate student (Doctoral course)	55.10%	27
3. Postdoctoral fellow, overdoctoral fellow, researcher, etc.	2.04%	1
4. Assistant professor	8.16%	4
5. Lecturer	2.04%	1
6. Associate professor	16.33%	8
7. Professor	2.04%	1
8. No affiliation (emeritus professor, visiting professor, etc.)	0.00%	0
全回答数: 49		

Q：あなたの身分・職階が大学院生（修士課程、博士課程）の場合、希望もしくは決定している進路をお答えください。

回答の選択肢	回答数	
1. アカデミア（進学、転科、再入学等）	22.02%	96
2. 就職	77.98%	340
全回答数: 436		

回答の選択肢	回答数	
1. Academia (further education, transfer, re-entry, etc.),	58.82%	20
2. Employment	41.18%	14
全回答数: 34		

Q：ご自身の活動時間割合を教えてください。（計 100%になるように回答。回答者が教員の場合のみ）

割合												
	0%	10%	20%	30%	40%	50%	60%	70%	80%	90%	100%	合計
1. 教育活動	1.32% 9	5.88% 40	12.65% 86	30.00% 204	24.85% 169	12.50% 85	6.76% 46	4.85% 33	1.18% 8	0.00% 0	0.00% 0	680
2. 研究活動	1.33% 9	18.11% 123	27.39% 186	24.74% 168	12.96% 88	7.81% 53	4.12% 28	1.47% 10	1.03% 7	0.44% 3	0.59% 4	679
3. 社会貢献	15.18% 97	57.28% 366	18.00% 115	6.10% 39	1.25% 8	1.25% 8	0.63% 4	0.16% 1	0.16% 1	0.00% 0	0.00% 0	639
4. 管理運営	6.94% 45	31.64% 205	23.92% 155	18.06% 117	10.65% 69	4.17% 27	3.09% 20	0.77% 5	0.31% 2	0.00% 0	0.46% 3	648

Percentage												
	0%	10%	20%	30%	40%	50%	60%	70%	80%	90%	100%	合計
1. Education	0.00% 0	14.29% 2	7.14% 1	14.29% 2	50.00% 7	7.14% 1	0.00% 0	0.00% 0	7.14% 1	0.00% 0	0.00% 0	14
2. Research Activities	0.00% 0	0.00% 0	7.14% 1	14.29% 2	57.14% 8	0.00% 0	0.00% 0	7.14% 1	14.29% 2	0.00% 0	0.00% 0	14
3. Social contribution	0.00% 0	76.92% 10	7.69% 1	7.69% 1	0.00% 0	0.00% 0	7.69% 1	0.00% 0	0.00% 0	0.00% 0	0.00% 0	13
4. Administration	7.14% 1	57.14% 8	21.43% 3	14.29% 2	0.00% 0	0.00% 0	0.00% 0	0.00% 0	0.00% 0	0.00% 0	0.00% 0	14

Q：自身の研究活動の実施に際した事項として、以下の項目の重要性の認識をお答えください。

	自分の研究には該当しない	全く重要ではない	あまり重要ではない	どちらとも言えない	重要である	非常に重要である	合計	加重平均
参照した先行研究・資料の典拠を明確にする	0.71% 7	0.10% 1	0.91% 9	1.63% 16	29.17% 287	67.48% 664	984	4.61
研究の対象に関する倫理面での配慮を考慮する	7.83% 77	0.51% 5	3.56% 35	4.27% 42	29.07% 286	54.78% 539	984	4.11
研究を実施する上で必要なルール（法律、指針等）を明確にする	3.96% 39	0.71% 7	2.54% 25	7.22% 71	35.16% 346	50.41% 496	984	4.20
研究データ*を適切に管理・保管する	2.24% 22	0.51% 5	0.71% 7	1.93% 19	27.03% 266	67.58% 665	984	4.54
研究データの収集方法を明確にする	2.44% 24	0.51% 5	0.91% 9	2.44% 24	31.00% 305	62.70% 617	984	4.47
研究データの分析過程を明確にする	2.34% 23	0.41% 4	0.51% 5	3.46% 34	31.81% 313	61.48% 605	984	4.46
先行研究の再現性**を確認する	6.00% 59	0.51% 5	5.28% 52	17.99% 177	38.92% 383	31.30% 308	984	3.77
自身の研究結果の再現性を確認する	5.18% 51	0.51% 5	2.03% 20	8.33% 82	34.96% 344	48.98% 482	984	4.14
研究に関連する機器、ソフトウェア、プログラム等を使用するための知識やスキルを習得する	2.64% 26	1.02% 10	3.86% 38	10.26% 101	48.88% 481	33.33% 328	984	4.02
共同研究者間での情報共有を心がける	4.17% 41	0.30% 3	1.52% 15	8.23% 81	46.85% 461	38.92% 383	984	4.10
成果発表の際、議論の構造を明確にする	0.91% 9	0.20% 2	1.02% 10	7.52% 74	41.36% 407	48.98% 482	984	4.35
成果発表の際、論証や解釈に飛躍がないようにする	0.51% 5	0.20% 2	0.81% 8	3.46% 34	37.09% 365	57.93% 570	984	4.50
研究分野に関連する、政府や学術団体の国内外の動向を知る	2.03% 20	0.81% 8	3.66% 36	15.04% 148	45.93% 452	32.52% 320	984	4.00

* 研究データ：実験や観測、シミュレーション結果、アンケート調査結果、フィールドワークの記録、貴重な古文書・資料、インタビューで得られた内容（テキスト、音声)、撮影した映像・写真等)

** 再現性の意味：同じデータと同じ方法で再解析する、新たなデータと同じ方法で追試する、新たなデータと違う方法で追試する等、条件を変えてもある現象や結果が生じること

	NOT APPLICABLE TO MY RESEARCH	NOT AT ALL IMPORTANT	NOT VERY IMPORTANT	CAN'T SAY EITHER WAY	IMPORTANT	VERY IMPORTANT	合計	加重平均
Clarify the sources of previous studies and materials referred to.	0.00% 0	0.00% 0	0.00% 0	0.00% 0	35.90% 14	64.10% 25	39	4.64
Consider the ethical considerations of the subject of the research.	5.13% 2	0.00% 0	5.13% 2	5.13% 2	28.21% 11	56.41% 22	39	4.21
Clarify the rules (laws, guidelines, etc.) necessary to conduct the research.	2.63% 1	2.63% 1	2.63% 1	0.00% 0	36.84% 14	55.26% 21	38	4.32
Appropriately manage and store research data*.	0.00% 0	0.00% 0	0.00% 0	2.56% 1	33.33% 13	64.10% 25	39	4.62
Clarify the research data collection method	0.00% 0	0.00% 0	0.00% 0	2.56% 1	41.03% 16	56.41% 22	39	4.54
Clarify the process of analysis of research data	0.00% 0	0.00% 0	0.00% 0	2.56% 1	33.33% 13	64.10% 25	39	4.62
Confirm the reproducibility** of previous research	2.56% 1	0.00% 0	2.56% 1	12.82% 5	38.46% 15	43.59% 17	39	4.15
Confirm the reproducibility of your own research results	2.56% 1	0.00% 0	0.00% 0	7.69% 3	33.33% 13	56.41% 22	39	4.38
Acquire the knowledge and skills to use equipment, software, and programs related to the research	0.00% 0	0.00% 0	5.13% 2	2.56% 1	35.90% 14	56.41% 22	39	4.44
Keep in mind the need to share information among collaborators.	0.00% 0	0.00% 0	0.00% 0	5.13% 2	58.97% 23	35.90% 14	39	4.31
Clarify the structure of the discussion when presenting results.	0.00% 0	0.00% 0	0.00% 0	2.56% 1	41.03% 16	56.41% 22	39	4.54
Avoid leaps in argumentation and interpretation when presenting results.	0.00% 0	0.00% 0	2.56% 1	7.69% 3	25.64% 10	64.10% 25	39	4.51
To be aware of domestic and international trends in government and academic organizations related to the research field	2.56% 1	0.00% 0	2.56% 1	5.13% 2	46.15% 18	43.59% 17	39	4.23

Q：あなたからみて、自分の専門分野や周囲の研究者が以下の項目の重要性をどう評価しているように見えるかをお答えください。

	自分の研究には該当しない	全く重要ではない	あまり重要ではない	どちらとも言えない	重要である	非常に重要である	合計	加重平均
参照した先行研究・資料の典拠を明確にする	0.51% 5	0.10% 1	1.12% 11	6.71% 66	39.13% 385	52.44% 516	984	4.41
研究の対象に関する倫理面での配慮を考慮する	6.40% 63	0.71% 7	3.25% 32	10.37% 102	35.37% 348	43.90% 432	984	3.99
研究を実施する上で必要なルール（法律、指針等）を明確にする	2.95% 29	1.12% 11	2.03% 20	13.52% 133	38.92% 383	41.46% 408	984	4.09
研究データ*を適切に管理・保管する	2.13% 21	0.61% 6	1.93% 19	10.26% 101	36.08% 355	48.98% 482	984	4.24
研究データの収集方法を明確にする	2.03% 20	0.81% 8	1.32% 13	10.87% 107	37.60% 370	47.36% 466	984	4.23
研究データの分析過程を明確にする	2.24% 22	0.61% 6	1.42% 14	11.59% 114	37.70% 371	46.44% 457	984	4.21
先行研究の再現性**を確認する	4.57% 45	1.32% 13	5.79% 57	22.97% 226	37.09% 365	28.25% 278	984	3.71
自身の研究結果の再現性を確認する	4.07% 40	1.02% 10	4.27% 42	17.17% 169	36.69% 361	36.79% 362	984	3.92
研究に関連する機器、ソフトウェア、プログラム等を使用するための知識やスキルを習得する	2.34% 23	1.42% 14	5.08% 50	21.44% 211	41.67% 410	28.05% 276	984	3.83
共同研究者間での情報共有を心がける	1.93% 19	0.81% 8	3.46% 34	17.99% 177	43.19% 425	32.62% 321	984	3.98
成果発表の際、議論の構造を明確にする	0.71% 7	0.91% 9	2.44% 24	13.72% 135	42.07% 414	40.14% 395	984	4.16
成果発表の際、論証や解釈に飛躍がないようにする	0.41% 4	0.91% 9	2.54% 25	10.77% 106	40.65% 400	44.72% 440	984	4.24
研究分野に関連する、政府や学術団体の国内外の動向を知る	1.32% 13	1.02% 10	3.96% 39	17.48% 172	43.29% 426	32.93% 324	984	3.99

	NOT APPLICABLE TO MY RESEARCH	NOT AT ALL IMPORTANT	NOT VERY IMPORTANT	CAN'T SAY EITHER WAY	IMPORTANT	VERY IMPORTANT	合計	加重平均
Clarify the sources of previous studies and materials referred to.	0.00% 0	0.00% 0	2.56% 1	2.56% 1	48.72% 19	46.15% 18	39	4.38
Consider the ethical considerations of the subject of the research.	2.56% 1	2.56% 1	2.56% 1	7.69% 3	33.33% 13	51.28% 20	39	4.21
Clarify the rules (laws, guidelines, etc.) necessary to conduct the research.	2.56% 1	2.56% 1	2.56% 1	2.56% 1	43.59% 17	46.15% 18	39	4.21
Appropriately manage and store research data*.	0.00% 0	0.00% 0	2.56% 1	5.13% 2	46.15% 18	46.15% 18	39	4.36
Clarify the research data collection method.	0.00% 0	0.00% 0	5.13% 2	0.00% 0	35.90% 14	58.97% 23	39	4.49
Clarify the process of analysis of research data.	0.00% 0	0.00% 0	5.13% 2	2.56% 1	33.33% 13	58.97% 23	39	4.46
Confirm the reproducibility** of previous research.	2.56% 1	2.56% 1	2.56% 1	12.82% 5	33.33% 13	46.15% 18	39	4.10
Confirm the reproducibility of your own research results.	2.56% 1	0.00% 0	5.13% 2	12.82% 5	30.77% 12	48.72% 19	39	4.15
Acquire the knowledge and skills to use equipment, software, and programs related to the research.	0.00% 0	0.00% 0	7.69% 3	5.13% 2	35.90% 14	51.28% 20	39	4.31
Keep in mind the need to share information among collaborators.	0.00% 0	0.00% 0	7.69% 3	2.56% 1	51.28% 20	38.46% 15	39	4.21
Clarify the structure of the discussion when presenting results.	0.00% 0	0.00% 0	5.13% 2	5.13% 2	43.59% 17	46.15% 18	39	4.31
Avoid leaps in argumentation and interpretation when presenting results.	0.00% 0	0.00% 0	10.26% 4	5.13% 2	33.33% 13	51.28% 20	39	4.26
To be aware of domestic and international trends in government and academic organizations related to the research field.	2.56% 1	2.56% 1	2.56% 1	7.69% 3	41.03% 16	43.59% 17	39	4.13

Q：資料・文献・実験や調査で得たデータ等、厳密な管理が必要な諸情報はどのように管理していますか。

回答の選択肢	回答数	
所属機関が用意しているサーバー等で電子的に管理している	25.91%	255
所属機関が用意している保管場所（書庫等）で物理的に管理している	13.62%	134
研究室単位で用意しているサーバー等で電子的に管理している	39.74%	391
研究室単位で用意している保管場所（施錠可能な金庫など）で物理的に管理している	32.72%	322
個人で用意しているサーバー等で電子的に管理している	40.55%	399
個人で用意している保管場所（施錠可能な金庫など）で物理的に管理している	26.83%	264
学外の団体が提供しているサービスを利用している	4.47%	44
厳密な管理が必要な情報を扱う研究ではない	15.14%	149
その他 （自由記述）	1.52%	15
全回答数: 984		

回答の選択肢	回答数	
They are managed electronically on a server provided by your institution.	33.33%	13
They are physically managed in storage places (e.g., archives) provided by your institution.	33.33%	13
Managed electronically on a server, etc. provided by each laboratory.	33.33%	13
Physically managed in a storage location (e.g., lockable safe) provided by the laboratory.	25.64%	10
Electronically managed on a server, etc. provided by an individual.	23.08%	9
Physically managed in a storage location (e.g., lockable safe) provided by the individual.	17.95%	7
Using a service provided by an organization outside the university	0.00%	0
The research does not handle information that requires strict management.	15.38%	6
Other - please specify below	0.00%	0
全回答数: 39		

Q：あなたの所属機関もしくは周辺について、研究活動について多方面から相談を受ける機会としてどのようなものがありますか。

回答の選択肢	回答数	
制度として、指導教員の他にメンターが配置されている	22.87%	225
制度として、学内に研究の相談をできる部署・人員が配置されている	36.59%	360
学生同士での研究上の交流が盛んである	31.00%	305
その他 （自由記述）	26.63%	262
全回答数: 984		

回答の選択肢	回答数	
As a part of the system, a mentor is assigned in addition to the supervisor.	51.28%	20
As a part of the system, there is a department or a person in the university who can consult with you about your research.	41.03%	16
There is a lot of research exchange among students.	38.46%	15
Other - please specify below	12.82%	5
全回答数: 39		

Q：あなたの所属機関もしくは部局には、あなたの研究の倫理面について審査をすることのできる研究倫理審査委員会もしくはこれに類した体制がありますか。なお、ここでの研究倫理とは、研究不正行為（捏造・改ざん・盗用）に関することではなく、研究を実施する上で研究対象に対して持つべき配慮（被験者保護や動物愛護等）についてのことを念頭におきます（以下の設問も同様）。

回答の選択肢	回答数	
1. ある	77.74%	765
2. ない	3.86%	38
3. わからない	17.58%	173
その他 （自由記述）	0.81%	8
合計		984

回答の選択肢	回答数	
1. Yes	84.62%	33
2. No	0.00%	0
3. Don't know	15.38%	6
Other - please specify below	0.00%	0
合計		39

Q：あなたはこれまで研究倫理審査委員会に審査を依頼したことがありますか

回答の選択肢	回答数	
1. ある	42.78%	421
2. ない	57.22%	563
合計		984

回答の選択肢	回答数	
1. Yes	43.59%	17
2. No	56.41%	22
合計		39

Q：「ない」と回答した人は、その理由を教えてください。複数回答可

回答の選択肢	回答数
1. 倫理審査について指導を受けたことがなく、倫理審査の必要性を検討したことがないから。	23.21% 133
2. 倫理審査の必要が全くない研究内容（文献研究など）だから。	46.77% 268
3. 研究内容に倫理審査に関する事項が含まれていると思われるものもあったが、そのような指導や求めを受けたことがないから。	7.16% 41
4. 研究内容に倫理審査に関する事項が含まれていると思われるものもあったが、学内の規定やルールに照らして倫理審査の必要がないことを確認できたから。	18.32% 105
その他 (具体的に)	10.47% 60
全回答数: 573	

回答の選択肢	回答数
1. Because I have never been instructed about ethical review and have never considered the necessity of ethical review.	8.70% 2
2. Because the content of my research does not require ethical review at all (e.g., literature research).	39.13% 9
3. Because I have never received any guidance or request to do so, even though some of the research content seemed to include matters related to ethical review.	0.00% 0
4. Because I was able to confirm that there was no need for ethical review in light of the university's regulations and rules, even though some of the content of my research seemed to include matters related to ethical review.	34.78% 8
Other - Please specify below	26.09% 6
全回答数: 23	

Q：あなたの所属する学会には、研究発表（口頭発表、論文発表）に際して、研究倫理審査委員会での審査を要する旨を定めた規程はありますか。複数の学会に所属している場合は、あなたが主に活動をしている学会について回答してください。

回答の選択肢	回答数	
1. 口頭発表と論文発表のどちらにもある	38.21%	376
2. 口頭発表にはある	1.73%	17
3. 論文発表にはある	10.37%	102
4. わからない	49.70%	489
全回答数: 984		

回答の選択肢	回答数	
1. Yes, for both oral presentation and paper presentation	43.59%	17
2. Yes, for oral presentations.	0.00%	0
3. Yes, for paper presentations.	15.38%	6
4. Don't know	41.03%	16
合計		39

Q：研究倫理審査委員会にて審査もしくは意見を求めることが有効であると考えられるのは、どの項目ですか。

	全く有効ではない	有効ではない	どちらとも言えない	有効である	非常に有効である	合計	加重平均
研究計画全体	2.44% 24	5.28% 52	27.24% 268	40.24% 396	24.80% 244	984	3.80
アンケートの設問内容	1.83% 18	3.56% 35	24.80% 244	47.97% 472	21.85% 215	984	3.84
インタビューの質問内容	1.93% 19	3.66% 36	25.61% 252	46.85% 461	21.95% 216	984	3.83
研究対象者の選定基準	2.34% 23	4.88% 48	24.59% 242	42.68% 420	25.51% 251	984	3.84
研究対象者の数	3.46% 34	9.45% 93	37.30% 367	33.84% 333	15.96% 157	984	3.49
使用する統計手法を含む研究全体のデザイン	3.25% 32	7.42% 73	34.96% 344	35.47% 349	18.90% 186	984	3.59
利益相反の有無	1.63% 16	2.34% 23	16.46% 162	39.74% 391	39.84% 392	984	4.14
個人情報・プライバシーの管理	0.91% 9	1.12% 11	11.48% 113	32.83% 323	53.66% 528	984	4.37
取得したデータの管理方法	1.42% 14	1.73% 17	16.16% 159	37.50% 369	43.19% 425	984	4.19

	NOT AT ALL EFFECTIVE	NOT EFFECTIVE	UNDECIDED	EFFECTIVE	VERY EFFECTIVE	合計	加重平均
Overall research plan	0.00% 0	5.13% 2	7.69% 3	58.97% 23	28.21% 11	39	4.10
Content of the questionnaire	0.00% 0	2.63% 1	18.42% 7	50.00% 19	28.95% 11	38	4.05
Content of interview questions	0.00% 0	2.63% 1	10.53% 4	47.37% 18	39.47% 15	38	4.24
Selection criteria for research subjects	0.00% 0	2.63% 1	7.89% 3	52.63% 20	36.84% 14	38	4.24
Number of subjects to be studied	0.00% 0	5.13% 2	25.64% 10	43.59% 17	25.64% 10	39	3.90
Overall design of the study, including statistical methods to be used	0.00% 0	5.13% 2	17.95% 7	43.59% 17	33.33% 13	39	4.05
Existence of conflict of interest	0.00% 0	2.63% 1	5.26% 2	39.47% 15	52.63% 20	38	4.42
Management of personal information and privacy	0.00% 0	2.63% 1	5.26% 2	42.11% 16	50.00% 19	38	4.39
Management methods for obtained data	0.00% 0	2.63% 1	10.53% 4	50.00% 19	36.84% 14	38	4.21

Q：研究倫理審査に関する意見や経験をお聞かせください。

	全くそう思わない	そう思わない	どちらとも言えない	そう思う	強くそう思う	合計	加重平均
外部の有識者が審査に加わっている。審査のプロセスが明確になっている。	2.13% 21	7.83% 77	37.40% 368	36.59% 360	16.06% 158	984	3.57
審査に関する利益相反の有無が検討されている。審査結果に対して意見をする機会がある。審査結果が適切に開示されている。	1.32% 13	4.27% 42	35.16% 346	40.04% 394	19.21% 189	984	3.72
審査委員の構成・専門性は適切である。審査にかける時間は適切である。	2.03% 20	4.67% 46	41.26% 406	36.48% 359	15.55% 153	984	3.59
委員会の開催数、スケジュール等は適切である。	1.83% 18	5.18% 51	45.93% 452	33.94% 334	13.11% 129	984	3.51
申請をするためのシステムの操作は容易である。申請書を用意するための様式（記入例）がある。審査の必要性や内容を判断するための手引き（フローチャートなど）が提供されている。	3.25% 32	6.00% 59	38.52% 379	35.26% 347	16.97% 167	984	3.57
研究内容に沿った有益な意見を得られる。	2.85% 28	5.49% 54	43.50% 428	34.15% 336	14.02% 138	984	3.51
研究者の自律に基づいて研究を実施すべきである。	2.95% 29	5.49% 54	37.91% 373	36.79% 362	16.87% 166	984	3.59

	TOTALLY DISAGREE	DISAGREE	NEITHER AGREE NOR DISAGREE	AGREE	STRONGLY AGREE	合計	加重平均
External experts are involved in the review. The review process is clear.	2.56% 1	0.00% 0	25.64% 10	43.59% 17	28.21% 11	39	3.95
The existence of conflicts of interest in the review process is considered. There is an opportunity to comment on the review results. The results of the review are disclosed appropriately.	0.00% 0	2.56% 1	17.95% 7	51.28% 20	28.21% 11	39	4.05
The composition and expertise of the review committee members are appropriate. The time spent for the review is appropriate.	0.00% 0	2.56% 1	20.51% 8	46.15% 18	30.77% 12	39	4.05
The number and schedule of committee meetings are appropriate.	0.00% 0	2.63% 1	31.58% 12	42.11% 16	23.68% 9	38	3.87
The system for making applications is easy to operate. There is a form (example) for preparing an application. Guidance (e.g., flowcharts) is provided to determine the necessity and content of the review.	0.00% 0	0.00% 0	23.08% 9	46.15% 18	30.77% 12	39	4.08
Useful opinions can be obtained in line with the research content.	0.00% 0	2.56% 1	28.21% 11	46.15% 18	23.08% 9	39	3.90
The research should be conducted based on the researcher's autonomy.	2.56% 1	0.00% 0	30.77% 12	41.03% 16	25.64% 10	39	3.87

まとめ、今後の展望

今後は回答者属性と各回答を関連させた分析を実施する。なお本調査の実施に際しては、検証する仮説を設定してはいない。得られたデータを多側面から分析し、研究者の研究分野によって、研究倫理・研究公正、とりわけ研究の再現性の意識や、研究指導の内容に違いが発生しうるかを検討する。すなわち、探索的研究として成果を導き出し、成果発表に結びつけたい。

また、広島大学高等教育研究開発センター（RIHE）からの研究助成は 2022 年 3 月 31 日で終了するが、本研究は 2023 年 3 月 31 日までの期間で実施を申請・承認を受けている。経年比較のため、JSPS 科研費にて同内容の調査を実施することを計画している。

謝辞

本研究は RIHE 公募型研究 B03003、JSPS 科研費 JP 21K00029 の助成を受けたものです。
(URL: https://rihe.hiroshima-u.ac.jp/research_activities/international-joint/summary/)

参考文献

- 池田功毅、樋口匡貴、平石界、藤島喜嗣、三浦麻子（2015）「心理学研究は信頼できるか？――再現可能性をめぐって『再ナビ！ブックレット Vol. 1』ちとせプレス
- 加藤司（2018）「『パーソナリティ研究』の新たな挑戦 - 追試研究と事前登録研究の掲載について」、『パーソナリティ研究』 27(2)、pp. 99-124.
- 国里愛彦（2020）「再現可能な心理学研究入門」『専修人間科学論集』、心理学篇、Vol. 10(1)、 pp. 21~33.
- 平石界、中村大輝（2021）「心理学における再現性危機の 10 年」、『科学哲学』Vol. 54(2)、pp. 27-50.
- Goodman SN, Fanelli D, Ioannidis JP. (2016) “What does research reproducibility mean?” *Sci Transl Med*. 2016 Jun 1;8(341):341ps12. doi: 10.1126/scitranslmed.aaf5027. PMID: 27252173.
- Peels, R., Bouter, L. (2018) “The possibility and desirability of replication in the humanities”, *Palgrave Commun* 4, 95. https://doi.org/10.1057/s41599-018-0149-x
- Peels, R. (2019) “Replicability and replication in the humanities”, *Res Integr Peer Rev* 4, 2. https://doi.org/10.1186/s41073-018-0060-4

広島大学高等教育研究開発センター　国際共同研究推進事業
Advancement of Higher Education Research: RIHE Monograph Series について

『Advancement of Higher Education Research: RIHE Monograph Series（旧ディスカッションペーパーシリーズ）』は、速報性を重視し暫定的にまとめて発信することを目的として企画されたシリーズ（オープン・ジャーナル）です。これまでに、「ディスカッションペーパーシリーズ」として、国際共同研究、公募型研究、戦略的プロジェクト研究、客員研究員による研究等、成果として取りまとめられたものが発信されました。（執筆者の所属は刊行時のものです）

注：本 Advancement of Higher Education Research: RIHE Monograph Series は、令和 3 年度国際共同研究の研究成果である。

研究課題名：人文学・社会科学分野の研究の再現性に関する基礎調査
研究課題番号：B03003
研究代表者：野内　玲（信州大学）
連携研究者：村澤　昌崇（広島大学高等教育研究開発センター）

RIHE Advancement of Higher Education Research
Monograph Series No.8

2022（令和 4）年 4 月 7 日　発行

人文学・社会科学分野の研究の再現性に関する基礎調査

執筆者：野内　玲（信州大学）

〒739-8512　広島県東広島市鏡山 1-2-2　電話（082）424-6240
https://rihe.hiroshima-u.ac.jp/

広島大学高等教育研究開発センター